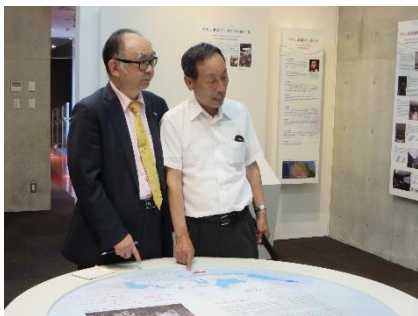


ERIA事務総長ご来館！

ERIA(東アジア・アセアン経済研究センター)は、東アジア経済統合の推進を目的として、政策の研究・提言を行う国際的機関です。本部はインドネシアのジャカルタにあり、参加国はアセアン10ヶ国(ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)と日本、中国、韓国、インド、オーストラリア、ニュージーランドの16カ国です。



事務総長は日本の西村英俊氏ですが、今回来日された機会に「稲むらの火の館」へ来館されたもので、特に

アチェコーナーで熱心に観覧され、現地の話もされていました。

アジア・オセアニア高校生フォーラム

和歌山県がアジア・オセアニア20カ国から高校生を招いて、県内の高校生と世界共通の課題について意見交換等を行うことで、グローバル社会で活躍するリーダーを育成する目的で開催されています。その引率の先生方、20カ



国20人が来館されました。3D映画も英語で聞けるイヤホンを付けてご覧いただきました。ガイダンスは、英語の字幕の入ったものを見ることができます。多言語化の成果です。インドネシアから来られた先生は、アチェ津波博物館コーナーでたいへん感激していました。

広小学校「梧陵ガイド」実施

昨年、関西圏の大学で防災を研究している学生達が研究大会を「館」で実施されました。その際に、「一日稲むらの火の館館長」を小学生がやったらどうだろうか、という提案を実際にやろうということで広小学校とコラボレーションしました。今回、その2回目が行われました。6年生が、関西、龍谷両大学の学生と指導教官と一緒に実施されました。事前の準備会で打ち合わせたクイズを大学生が表示や回答を分かりやすく記入したものを作成されました。また、小学生が肩にかける「梧陵ガイド」のたすきも作ってくれました。

6年生の子ども達も大学生に少し甘えながらも、がんばってお客様に問題を出して答えをもらっていました。お客様方も、よく対応して



いただきました。また、この様子は毎日新聞が取材してくれて、翌日に掲載されました。

.....

第7回稲むらの火講座開催

前号でお知らせしましたが、第7回稲むらの火講座を下記のとおり開催しますので、ご参加ください。参加申込は、稲むらの火の館へ。

- ◎ 日時 9月17日(日)午後1時～
- ◎ 場所 稲むらの火の館3階
- ◎ 講師 笠間 正弘先生(一般財団法人防災教育推進協会理事・防災教育センター長)
- ◎ 演題 「災害から命を守る教育 ～広川のこどもたちが取り組むジュニア防災検定～」

濱口大明神縁起 (その7)

濱田康三郎(かわせみより)

で、彼はただ彼の孫に、
『タダ!——早く——大急ぎだ!……松明をつけておくれ。』と呼びかけました。

松明は、暴風雨の夜の用意に、また或る神道の祭礼の用意に、多くの海辺の家に常から備付けてあります。タダが直座に松明に火を点けると、老人はそれを受取って急いで田甫へとんで出ました。そこには彼の家の投資の大部分ともいべき幾百とも知れぬ稲叢が、取入れを待って立っていました。斜面の縁に最も近い稲叢に近寄ると共に、彼は松明をそれに差付けました——次から次へと、老人の手足に身を運ばせ得るだけ敏速に。太陽に乾き切った藁は火口(ほくち)のように燃えつき、煽る(あおる)海風は炎を陸の方へ吹きつけました。見る見る、一列また一列と、稲叢は紅蓮の舌を挙げ、空ざまに渦巻き上る黒煙の柱は、合うて纏れて一つの巨大な雲の竜巻となりました。タダは肝潰れ心怯え、祖父の後を追いかけて、

『おじいさん! どうしたの? おじいさん! どうしたの?—どうしたの?』と呼び立てました。

けれどもハマグチは答えませんでした。彼には説明する時間が無かったのでした。彼は唯危急に迫れる四百の人命のことばかりを思っていたのでした。ややしばしタダは興奮して燃え立つ稲叢を見守って、やがてわっと泣き出し、祖父さんは気が狂ったのだと信じて、家へ走り帰りました。ハマグチはなおも稲叢から稲叢へと火をつけ続けて、自分の田の端まで来て松明を投げ捨て、待ち構えました。山寺の小坊主は燃えさかる火の手を見て、大釣鐘をごうんごうんと撞立て、人々は火の手と早鐘とに応えました。ハマグチは彼等が砂地を退き、浜辺を越え、村を出て、蟻の群のように——今は寸秒の時間も千秋の思いがされた彼の焦立たしい眼には、殆ど蟻の群同様の鈍(のろ)い足どりをして——急ぎ登って来る姿を見守りました。太陽は將に歿しようとして、そして入江の皺んだ砂地と、そのまださきに広く土色の斑点をつけてひろが

った海底とは、残んの橙いろの光のなかにまざまざと露出していました。しかも海は依然地平線の方へ続々と退いているのでした。(つづく)

＜若き津波防災大使＞

(平成28年度高校生サミット報告書から)

今回の旅は、間違いなく思い出に残る、新鮮な体験だった。日本の皆さんが自然災害に関して一致団結している様子が最も印象的だった。日本における津波のヒーローである濱口梧陵の話は感動的で、勇気をもらった。津波の意識を高めるべく、日本人が持つ情熱や真剣な姿が思い浮かぶ。緊急避難訓練の時には結束の様子を肌で感じた。訓練であるにもかかわらず、一人一人が真面目に捉えていた。これらの津波防災啓発の取り組みは、今後、世界でもっと知られるようになると確信している。私も帰国してから、津波への意識を高められるような行動を広め、訓練の際に学んだことを実践して、いつ起こるか分からない災害に常に備えたい。様々なことに触れて体験できたことは、私にとって大変貴重だった。(シンガポールから参加)



(昨年、稲むらの火の館での見学風景)

＜稲むらの火の館の紹介＞

濱口梧陵記念館/津波防災教育センター

〒643-0071 住所 和歌山県有田郡広川町広 671

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>

*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

*休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

(世界津波の日の11月5日は開館)

年末年始(12/29～1/4)

*記念館だけの入場は無料です。